粘着剤付化粧フィルムのメンテナンス

リアテック

■リアテックの一般注意事項

入居後の換気

施工時の臭いが残る場合がありますので入居後（施設利用開始後）、一週間程度は十分に換気を行ってください。

直射日光からの保護

直射日光が長時間当たる場所では変色や退色するおそれがあります。カーテンやガラスフィルムなどで、日除けをおすすめします。

タバコの煙やキッチンの油煙

タバコの煙やキッチンの油煙などはリアテックを黄変させ、汚れがとれなくなることがあります。
室内の換気を十分に行い、定期的な清掃を行うことをおすすめします。

薬品や化粧品類

スプレー式の薬品（殺虫剤、塗料など）や化粧品、傷薬などの医薬品をリアテックに付着させないでください。
種類によっては付着した色が落ちなくなったりリアテックが変色したり剥れたりすることがあります。

家具の設置

家具の塗料やベニヤに含まれる色素により、リアテックが変色することがあります。 家具とリアテックの間は空間の余裕をとってください。 変色だけでなく結露やかび発生の防止にもなります。

暖房設備や空調設備まわり

ストーブなどの暖房設備の熱風がリアテックに直接当たらないように注意してください。
変色や浮きやふくれのおそれがあります。
エアコンや換気扇などの風があたる箇所や機器周りは汚れが集中しやすく、こまめにハタキ掛けや柔らかい布で拭き掃除を行うことをおすすめします。

静電気

家電製品（冷蔵庫、テレビ、電子レンジなど）とリアテックは空間の余裕をとってください。
静電気により埃が付着しやすくなり、リアテックが汚れる原因となります。

粘着テープ

粘着テープ（セロハンテープ、ガムテープ、シールなど）はリアテック痛めてしまう場合がありますので貼らないでください。テープの粘着剤がリアテックに移行して変色や汚れの原因となる場合がある他、特にゴム系の粘着剤は変色がおきる可能性がありますのでご注意ください。

粘着剤付化粧フィルムのメンテナンス

リアテック

衝撃や摩擦

リアテックに過度な衝撃や摩擦を加えた場合、キズや破れの発生や表面の凹凸が復元しない場合があります。
一部商品は特性上、キズが目立ちやすいため清掃の際には柔らかい布を使用頂き、強い圧や乾拭きは
さけてください。（マット加工商品　抗ウイルス商品　光沢の強い商品が該当します。）

変色

リアテックは単体で変色することはありません。変色する場合はなんらか外部環境の影響を受けており、
メンテナンスで変色部分を取り除くことが困難な場合があります。

■日常のメンテナンス

埃や塵などは帯びている静電気により壁に付着する性質があります。こまめにハタキ掛けや柔らかい布等での
拭き取りをおすすめします。表面の凹凸に埃がたまりやすく、放置すると埃が湿気を吸い取りかび発生の
原因にもなりますので、ご注意ください。軽い汚れであれば、水拭きや洗剤（薄めた中性洗剤等）で落とすこと
できますが、拭き取った後は必ず水分や洗剤等が残らないようきれいに柔らかい布で乾拭きしてください。
長年、蓄積した汚れは落とすことが難しいため、定期的に柔らかい布で拭き掃除をお願いします。

■汚れが付着した場合

飲食物や調味料などの汚れは、柔らかい布で汚れを吸い取るように拭き取ってください。
落ちにくい場合は水や希釈した中性洗剤をご使用ください。表面に残った洗剤は変色の原因になりますので
水かぬるま湯できれいに拭き取ってください。強く擦り過ぎると表面の色・艶が変化する場合がありますので
ご注意ください。クレンザーなど研磨剤が含まれている洗浄剤やシンナーなどの有機溶剤はキズや変色が
発生する場合がありますので使用しないでください。

■水まわり（浴室など）にご使用の場合

漂白成分が含まれる洗剤を使用した場合、表面の色や艶が変化する場合がありますのでご注意ください。
50℃以上の熱湯は表面の色や艶の変化、膨れや剥がれにつながる可能性があるのでご注意ください。
フックや棚等を吸盤で設置される場合、汚れがたまりやすく商品の凹凸に入りこんでしまった場合落としにくく
なり、また長期間設置していた場合には製品に跡がつく可能性があります。また、吸盤の種類によっては浮きや
剥がれの原因となる可能性があります。
マグネットを使用された場合サビの原因となりますので、使用しないでください。
スポンジや金具付きの清掃用具は商品を傷つける可能性がありますので使用しないでください。
ヘアケア商品や洗剤等が商品の凹凸につまる可能性がありますので小まめな清掃をお願いいたします。
カビの原因になりますので十分な換気をお願いいたします。

粘着剤付化粧フィルムのメンテナンス

リアテック

■かびについて

かびは見た目の悪さの問題だけでなく、アレルギーやぜんそくなど、病気の原因になることがありますので注意が必要です。

かびを防ぐ

かびの発生は建物の構造や環境に大きく影響を受けます。十分に換気を行い、風通しをよくして、湿度の上昇を抑えてください。

かびが発生した場合

かびが表面だけに発生している場合、早めに消毒用アルコールで拭き取るのが効果的です。
尚、内部に達している場合や大量に発生してしまった場合は落とすことが困難です。
専門業者に相談することをおすすめします。

■結露の防止について

結露や過度の湿気は、シミ・剥がれ・かび発生の原因となりますので室内の換気や湿度調整を心がけてくだい。

換気や除湿

常に換気を心がけて、暖房器具などから発生する水蒸気を外へ排出してください。特に浴室や料理時の水蒸気などにはご注意ください。除湿器や吸湿材などの活用も有効です。

通気

家具裏などの隙間に余裕を取り、建物全体の空気の流れをよくするようにしてください。

冬の結露について

冬場は室内と外気に気温差が大きく、結露が発生しやすい時期です。また加湿器を使用した後などは特に発生しやすくなります。こまめな換気や除湿を心がけてください。

■除菌ついて

消毒用アルコールや、次亜塩素酸水等で除菌した場合、かならず拭き残しがないように水を含ませて絞った柔らかい布で拭き取ってください。拭き残しがあるとリアテックの退色や変色に繋がる恐れがありますのでご注意ください。